



「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

第99回 全国高等学校野球選手権大会

TOP*NEWS

東東京大会 準優勝



閉会式での様子



延長10回サヨナラ勝ち! 応援スタンドに走り出すサイン!(準々決勝: 帝京戦)

決勝までの経過

2回戦(7月10日)	本校	44	—	0	都国際 (5回コールド)
3回戦(7月15日)	本校	6	—	4	都王子総合
4回戦(7月17日)	本校	3	—	2	大森学園
5回戦(7月19日)	本校	11	—	1	都淵江 (5回コールド)
準々決勝(7月23日)	本校	4	—	3	帝京 (延長10回)
準決勝(7月27日)	本校	5	—	3	東亜学園
決勝(7月29日)	本校	1	—	9	二松學舎大附属

2017年度第99回全国高等学校野球選手権大会 東東京大会は、141校参加のもと、7月8日から7月29日の3週間にわたって甲子園への切符をかけて熱戦が繰り広げられた。

本校は、ノーシードのため2回戦からの出場となったが、初戦は5回コールドの幸先の良いスタートを切った。3、4回戦は授業や剛健旅行といった学校行事もある中、接戦をきっちりものにし、5回戦は再び5回コールド勝ちと波に乗った。

準々決勝では、本校の野球部の歴史で初めて帝京高校を延長で下し、準決勝では東亜学園をやはり接戦で破り、9年ぶり2回目の選手権大会決勝にコマを進めた。

決勝の二松學舎大学附属戦では、序盤に大量失点をしてしまい、そこまで見せていた粘りの野球ができずに大差となってしまった。

大会期間中、ダンス部のチア、吹奏楽部130名による壮大な応援、準決勝・決勝の全校応援、OB・OGや地元の方々の温かい声援のもと、学校一丸となった選手権大会であった。甲子園への夢は、次年度以降の選手たちの頑張りに期待したい。

高校野球部 東東京大会準優勝

感謝そして初心

「お前たちなんか、一発(1回戦)で負けちまえ!!」

わずか大会2カ月前の練習試合のベンチでの選手とのやりとりである。秋の大会も、春の大会も、もう一歩上までいけるところで悔いの残る負け方をしていたチームは、完全に浮上のタイミングを失っていた。朝早く遠征先に出掛けては大敗を喫し、意気消沈して帰ってくる。これを4~5月は繰り返していたように思う。今思い起こしても、到底あのどん底から今回の結果は予想だにできなかった。転機となるタイミングは6月の1~2週目だったように思う。少しずつ開き直りもあり、選手たちから出る声が前向きになっていった。決して思い通りの試合運びというわけではないが、自分たちのやりたい野球に向かって歩み出した感じがした。

多くの不安を抱えてスタートした大会であったことは間違いないが、月並みな言い方になるが、一戦ごとに「聞える」選手が増えていったように思う。顔つき・振る舞い・練習での声掛けや取り組み…。どれをとっても「もう少し早くこの雰囲気を引き出してやれなかったかな」と自己嫌悪に陥る自分を、大会期間中の3週間は何とか食い

野球部監督 宮崎 孝一

止めるのに必死だった。勝ったことのない第一シード帝京戦の勝利、その後の準決勝と選手は集中していた。結果、決勝では敗れたものの、決勝も試合前の士気はたくましいほどに充実していた。

正直、決勝戦は自分たちの野球ができなかったが、素晴らしい応援団に大きな後押しをいただいて試合をさせてもらったことだけは忘れることができない。毎試合スタンドに挨拶に行くが、あれほどの応援団をグラウンドから目の当たりにすると、それだけで胸いっぱいになり、「感謝」以外に言葉が出てこない。今回の経験は得難いものであった。あれほど多くの高輪台応援団の歓喜に沸く光景を、試合後のグラウンドから見てみたい。目標はすぐに定まった。新たな歴史を創る下級生のチームに一層のご声援をいただけるようチーム作りをしていきたい。

最後に、野球部に勇気をくださった全ての方々に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

結束

野球部主将 3年1組 山木 瑠也



今大会は、吹奏楽部をはじめダンス部、全校生徒の皆様のご声援があり、東東京準優勝という成績を残すことができました。本当にありがとうございました。新チームが始動した頃は、わがチームは全くまとまりがありませんでした。秋季大会はベスト16、春季大会は2回戦敗退と、自分たちの思うような野球ができずに敗戦しました。また、練習試合でも勝てず苦しみました。しかし諦めずに努力したからこそ、最後の大会で結果が出たのだと思います。大会では、一戦一戦勝つにつれて、チーム力が上がっていくのを実感しました。特に帝京高校戦では、メンバーだけでなく部員全体で戦ったからこそ勝つたのだと思います。

目標であった甲子園出場は叶いませんでしたが、悔いはありません。全員で同じ目標に向かって努力したことに意味があると私は思います。後輩たちには、甲子園に出場する夢を叶えてほしいと思います。最後に、私たちが力だけではここまでこられませんでした。指導していただいた監督・コーチ・支えてくださった両親・関係者の皆様には心から感謝の気持ちを伝えたいです。

感謝

野球部副主将 3年8組 石川 俊太郎



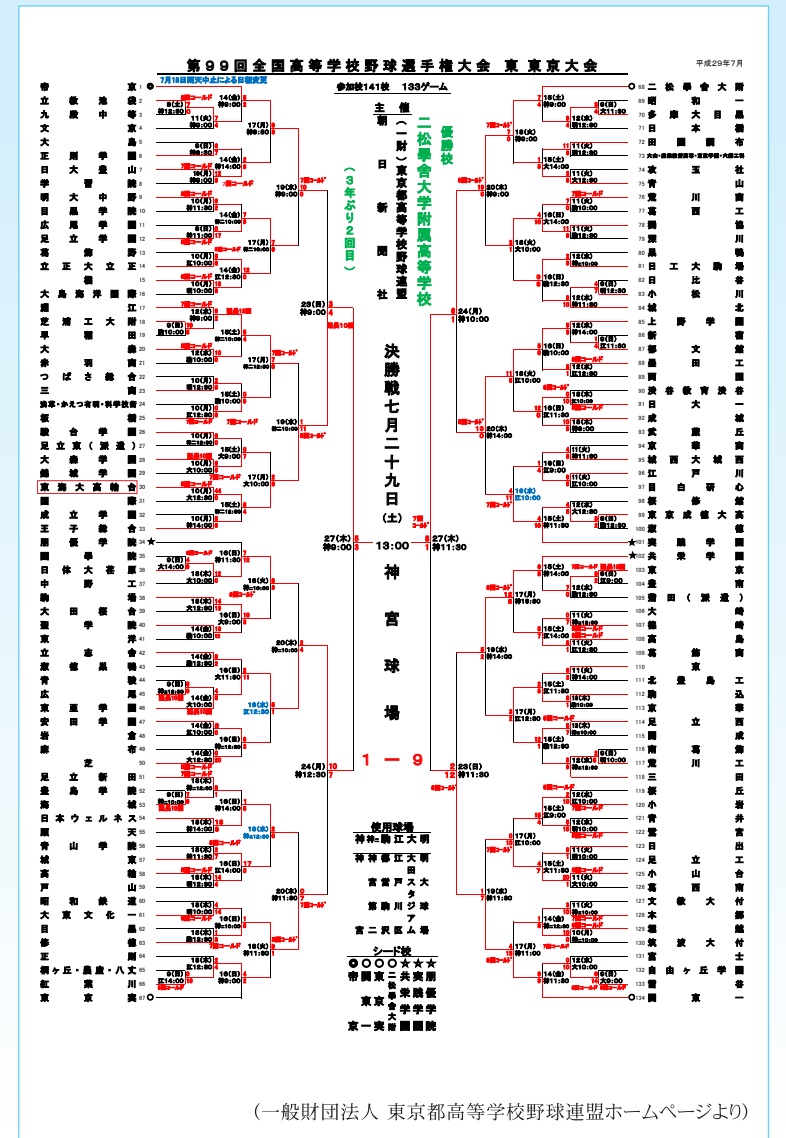
私たちはこの夏、東東京大会で準優勝という結果を残すことができました。しかし、この結果はベンチ入りメンバー20人だけでは決して達成することはできなかったと思います。ベンチに入らなかった選手たちのサポート、応援。そして、自分たちの大会があるにも関わらず応援に時間を割いてくださった吹奏楽部・ダンス部の皆さん、さらに保護者・一般生徒・OBの方たち全ての人たちの協力があったからこそ結果だと私は思っています。

ありがとうございます。最後に、私はこの東海大高輪台の野球部に入ってよかったと心の底から言えます。このメンバー、応援の中で試合ができた思い出は私の一生の宝物です。私たち3年生が叶えられなかった甲子園出場という夢は、後輩たちが叶えてくれると思いますので、今後とも野球部の応援をよろしく願っています。

ありがとうございます。最後に、私はこの東海大高輪台の野球部に入ってよかったと心の底から言えます。このメンバー、応援の中で試合ができた思い出は私の一生の宝物です。私たち3年生が叶えられなかった甲子園出場という夢は、後輩たちが叶えてくれると思いますので、今後とも野球部の応援をよろしく願っています。



◇撮影：写真部(3年矢島、1年榎本、関根)



第49回 剛健旅行 1,394名参加 完歩率98.2%

生徒、教職員、後援会という三位一体の大規模行事である剛健旅行が、まさに夏休み直前の7月18日(火)、19日(水)に挙行された。

剛健旅行当日は、「真夏」の東京に対し、嬬恋では懸念された雨にはならなかったものの、心なしか肌寒い中での実施と相成った。

コース自体は昨年度と何ら変わらなかったけれども、参加した生徒たち一人ひとりの心には、新しい1ページが刻まれたことでしょう。

長い行程を歩き終えた後の「達成感」と「豚汁」は格別であったに違いない。

結果発表

高校男子トップ 10(36.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位 (2時間48分)	3	6	馬場 勇利	サッカー
2位	3	2	石田 蓮	陸上競技
3位	3	3	寺久保宇飛	陸上競技
4位	3	4	長谷川拓海	陸上競技
5位	3	7	小田原寛記	サッカー
6位	2	9	生魚 雄利	陸上競技
7位	2	7	笹路 武	サッカー
8位	2	10	秋田 陸	陸上競技
9位	1	8	池田 健人	サッカー
10位	3	2	河西 俊輔	陸上競技

中等部男子トップ 10(19.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位 (1時間59分)	3	A	金子 雄大	サッカー
2位	3	A	後埜上颯人	
3位	3	B	飯塚瑛一朗	サッカー
4位	3	B	榎本 武蔵	
5位	3	A	小林 柊星	男子バスケットボール
6位	2	A	大村 隼人	男子バスケットボール
7位	2	A	川島華真瑠	男子バスケットボール
8位	2	A	佐藤 真洸	男子バスケットボール
9位	3	B	大橋 烈	男子バスケットボール
10位	3	A	三嶋 健詩	

高校女子トップ 10(30.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位 (4時間3分)	3	6	田口もみじ	女子バレーボール
2位	2	6	佐藤 佳菜	女子バレーボール
3位	2	6	中嶋 涼嘉	女子バレーボール
4位	1	9	津吹 日菜	女子バレーボール
5位	1	6	高橋 悠歩	柔道
6位	1	8	城倉 葵	女子バレーボール
7位	1	6	須田みのり	女子バレーボール
8位	1	1	佐伯 明陽	柔道
9位	3	4	太田 朱里	女子バレーボール
10位	1	1	家入 真生	女子バレーボール

中等部女子トップ 10(19.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位 (2時間41分)	3	A	天野 葉月	陸上競技
2位	3	B	星野 南桜	ソフトテニス
3位	2	B	山田 理莉	陸上競技・美術
4位	2	B	有井 貴恵	陸上競技
5位	2	A	福島 愛静	美術・ESS
6位	3	B	塩見 怜奈	ソフトテニス
7位	3	B	清川 真央	女子バスケットボール
8位	1	A	鈴木 杏衣	女子バスケットボール
9位	1	B	磯 亜衣凜	ソフトテニス
10位	1	A	小泉 萌花	女子バスケットボール

高校男子 第1位



打倒自分

3年6組 馬場 勇利

昨年は妥協して、最後に歩いてしまった自分がいて、今年こそはそんな自分に勝たなくてはならないという気持ちを持って、剛健に臨みました。序盤は石田君に良いペースを作ってもらい、後半は寺久保君をひたすら無心に追いかけてきました。最後の剛健旅行、たくさんの人の応援や支えを感じて終えることができました。本当にありがとうございました。

高校女子 第1位



3連覇!!

3年6組 田口 もみじ

1・2年生の時に学年1位を獲得していたので、今回の剛健旅行では3年連続学年1位＝「学年3連覇」を目指していましたが、けがをしているため諦めようと思いう時がありました。でも一緒に走って支えてくれたメンバーがいて、私はゴールすることができ、さらに3連覇も達成し、高校女子1位を獲得することができました。ありがとうございました。(写真：一番左が田口さん)

中等部男子 第1位



3年A組 金子 雄大君

中等部女子 第1位



3年A組 天野 葉月さん

～ 剛健旅行の様子 ～



高校女子-中等部：いよいよスタート!



キャベツ畑の中をひたすら歩きます



雨に降られても元気いっぱい!



高校男子：スタートを待ちわびています



浅間山をバックに



この坂を上ればゴール!

群馬県嬬恋村

夏秋キャベツの生産日本一



嬬恋村村長 熊川 栄



「第49回剛健旅行」大変お疲れ様でした。当日は、天候に恵まれ多くの皆様が素晴らしい思い出とともに完走されたとお聞きしています。

さて、皆様が歩かれたコース沿線にはたくさんの「キャベツ畑」がございましたがご覧いただけただけでしょうか。嬬恋村は、日本一の生産量を誇る「夏秋キャベツ」の産地です。現在、皆様が食べているキャベツの大半は嬬恋村から出荷されたものです。嬬恋村は、群馬県の西北端に位置し浅間山をはじめ2,000m級の山々の裾野に広がる標高700m～1,400mの高原地帯にありま

す。土壌は黒ボク土といわれる火山灰土の腐食土壌が多く、高原野菜の栽培に適しています。現在、高原野菜の作付面積は約4,200haで、そのうちキャベツの作付面積は3,050haとなっています。夏は大変涼しく、6月～9月の平均気温はキャベツの生育適温と同じ15～20℃となっています。昼夜の温度差と高原特有の朝露、また栽培に適した土壌によって、やわらかく甘みのある、美味しいキャベツが生産されています。

どうか、これからも「新鮮」で「安心」「安全」な嬬恋キャベツをたくさん食べて、「勉強」や「スポーツ」等に頑張ってください。

第9回 中等部体育祭開催

6月23日に中等部体育祭を行いました。天気にも恵まれ、応援にも力が入り、赤組白組ともに白熱した戦いを繰り広げました。

体育祭実行委員長として

体育祭実行委員長 3年B組 飯塚 瑛一朗

とうとうやってきた。僕が一年間で一番楽しみにしている行事だ。とても緊張している。なぜなら、体育祭実行委員長になり中等部全員の前で話すからだ。体育祭実行委員長になってみて、大変なことがたくさんあった。でも、実行委員長になったからには、中等部の皆をまとめて、体育祭を成功させなければならないと思った。つらくて、辞めたくなったこともあったけれど、保護者の方や先生方が応援してくださったので、やる気が出て絶対に委員長の役目を果たすと心に決めた。そして本番。生徒会の人々が「体育祭実行委員長の言葉」とアナウンスした。とても緊張していた。けれど、今まで自分が頑張ってきたことを生かす、ここがそれを発揮する場だと思った。その結果、自分的には上手く話すことができ、成功したと思う。体育祭実行委員長になってよかった。



台風の目



背渡りリレー



玉入れ



箱リレー



ボール運び競走

おんぶ・二人三脚
障害物競走



ダンス(2・3年女子)



組体操

ダンス(1年男女)



選抜対抗リレー



部・同好会対抗リレー



行進賞☆2年A組

初めてだった応援団長

赤組応援団長 3年A組 小林 柊星

赤組は、全力でやりきって負けました。自分が応援団長になった理由は、じゃんけんに負けたからです。はじめはバスケット部の練習があって、応援団の練習に参加できませんでした。ですが、引退をしたため、応援団の練習に参加するようになりました。本当に自分が応援団長でいいのかわからなくなりました。しかし、そんなことを思っている暇もありませんでした。必死でダンスを覚えたり、セリフを覚えたりしました。予行練習をした時に、このままでは本当にやばいと皆が思いました。その日の練習で、自己紹介と入場のダンスを覚えました。ついに、当日がきました。バスの中では、絶対に勝つと思っていました。入場行進のときに、旗を持って先頭を歩くということを当日聞いて緊張してしまいました。応援では、誰よりも声を出して応援をして、種目も全力でやりましたが、結果はボロボロでした。しかし、悔いは残っていません。なぜなら、全て全力でやったからです。最後にこんな良い思い出を作ってください、本当にありがとうございました。

団長をやってみて

白組応援団長 3年B組 大橋 烈

僕は中等部体育祭で応援団長をやりました。始めたころは、どんな応援にしようか、それで盛り上がるか、失敗しないか、すごく悩んでいましたが、応援団のみんなが意見を出してくれたり、しっかり練習してくれてすごく心強かったです。赤組より生徒全体で合わせる動きが多く、その分、ズレてしまうところが多かったので、リハーサルも失敗してしまいました。すごく不安でしたが、体育祭当日に2年生数人が「烈先輩、今日はめっちゃ声出すんで」とわざわざ言いに来てくれて、ものすごくうれしかったです。おかげで、本番は一つもミスがなく、声を出してくれた人のおかげで応援がすごく盛り上がりました。その時、応援団長をやったよかったですと心から思いました。そして、優勝することもできて、最高の形で中等部最後の体育祭を終えることができました。本当に感謝と喜びでいっぱいです。



赤組応援団



白組応援団

協力・団結した体育祭

2年A組 土橋 愛重

すごく晴れて天気にも恵まれ、私たちは2回目の体育祭を迎えました。今回、みんなと協力するのはもちろんのこと、新しく、笑顔で元気に取り組み、赤組が優勝することや、移動体育やアリーナでの予行練習の時から目指していた行進賞を獲得することを目標に頑張りました。行進では、いつもの休み時間の時のように大きな声を出し、足を高く上げて心一つにみんなで揃えて頑張りました。次に、私は最終種目である全員リレーに一番力を入れて頑張りました。休んでいる人もいたため、その人の分まで全力で走りました。自分が走り終わったらすぐに次の人を応援して、少しでも白組との差を縮められるように大きな声で応援しました。全員リレーの結果は、惜しくも1位は取れませんが、バトンのミスではなく、全力でやったので悔いはありませんでした。総合結果は白組に100点くらい差をつけられ負けちゃいました、とても悔しかったです。でも、行進賞は取ることができたのでうれしかったです。次は、絶対勝ちたいです。

声の力

1年B組 布川 健太

「白組勝つとこ見たーい、見たーい、白組勝つとこ見たーい、だから見せてくれー」僕は赤組に負けじと顔を真っ赤にしながら応援していた。応援スペースは、1年生の白組で埋め尽くされていた。いつもは、あまり大きな声を出さない女子たちも叫んでいた。そこでなぜか初めて「クラスだなぁー」って思えた。正直、体育祭が一番応援が思い出に残っている。先生たちが声をそろえて「応援には力がある」と言うが、僕は信じなかった。でも、今は信じるようになった。なぜなら、台風の日では練習の時はA組に一回も勝てなかったけれど、本番では勝つことができたからだ。練習の時と違うところは応援したことだ。最初は男子だけで声を出していたけれども、途中からポツポツと女子が声を出し始めていた。気が付けばクラス全員で応援していた。いつもはふざけている人が、一番声を出して目を丸くしてしまった。その子に負けじと声を出した。はじめは負けていたけれど、追い抜かす勢いで走る人のスピードが速くなって、ついには抜かしてしまっ。そのとき何かグッときてしまった。そのままゴールしてA組に勝った。その時に声の力を実感した。これからも大きな声で人のために声が枯れるまで応援していきたい。

作文コンテスト



中等部では今年も作文コンテストが行われました。今回の課題は「らしさ」です。50分間で考えをまとめ、文章にすることは簡単なようで難しいものです。今回、グランプリ、準グランプリに選ばれた皆さんは、それぞれの思いを400字という文章の中でしっかりとまとめてくれました。ここにグランプリ作品を紹介します。

1年グランプリ

1年A組 小島 嵩史

「らしさ」という言葉を聞いて、一番に考えたのは「中学生らしさ」だ。僕は今年、中学生になり、家、学校、さまざまな場所で、「中学生らしい行動をするように」と言われる。

そもそも、「中学生らしい」とはどんな事なのだろうか。僕には、まだ中学生になった実感が無い。考えてみると、僕が今、中学生らしい事と思っている事、それは、あいさつ、時間を守るなどどれも小学生のころから言われてきたことばかりだ。しかし、中学校に入ってから、大きく変わったと思うことがある。例えば、あいさつなら、自ら進んであいさつをしたり時間を守る事なら、親、先生などを頼らずに、しっかりと行動する事。これらに共通している事は、「自ら」ということだと思ふ。

中学生とは、大人への大きな一歩だ。あと、三年間の中学校生活で「自ら」行動することができる、「中学生らしい」中学生になりたい。

3年グランプリ

3年A組 千葉 俊

僕は「らしさ」についてとても良いイメージがあります。皆違って皆良いと昔から言われてきたように一人ひとり違った部分を持っていることが自分らしさと言えるのではないかと思います。

僕には双子の兄がいます。兄は部活が忙しい中、時間を効率よく使い学習しているため、学年の中でもトップクラスの学力を持っています。しかし、僕より少し短気で、少々自己中心的な部分があります。

そして、僕はと言うと学力が良いと言えるわけではなく、長い時間集中することができず、いすに座っているだけです。兄よりも少しだけ精神年齢が高いと思っています。

このように人にはそれぞれ長所と短所があり、双子であってもそれは変わりません。

しかし、自分らしさが原因でいじめなどの社会問題にもなっています。だからこそ自分のらしさも大切にしながらも、他者の個性も尊重し合えるようにならなければいけません。と思っています。

2年グランプリ

2年A組 一宮 万里河

私は「らしさ」というのは人や物に対する押しつけだと思ふ。例えば、知り合いの大人から「大人らしいね」と言われたとする。良い言葉に受けとめる人もいるが、「自分の心はまだ、子供でありたいのに」と思っていたとすれば、「大人らしさ」というのはその人に対する決めつけになってしまう。

だから、「らしさ」というのはあまり良い言葉ではないと思ふ。

その考えとは真逆に「らしさ」とは一生涯、大事にしていかなければならない言葉だと考える。今の社会に大人は大人らしくふるまわなければならぬと押しつけられている。

けれど、子供のように自由な心でなければ捉えられない発想、自分らしくなければ見つけられない事など、たくさん大事なことがある。今の大人たちはその大事なことに気づかないで忘れている。私は「らしさ」とは何かに対する押しつけであると同時に私達が一生、大切に生きていかなければならない言葉だと思ふ。

1年 グランプリ A組 小島 嵩史
準グランプリ B組 村井 大介

2年 グランプリ A組 一宮 万里河
準グランプリ B組 齋藤 圭

3年 グランプリ A組 千葉 俊
準グランプリ B組 小松原 来未



左から小島君、村井君、一宮さん、齋藤さん、千葉君、小松原さん

2017年度 小論文コンテスト



左から木村さん、今野さん、岡崎さん、中村さん

2017年5月16日(火)、高校3年生で東海大学進学希望者全員が「付属推薦小論文試験」を受験しました。同じく、高校1・2年生は「小論文コンテスト」という名の下に同一テーマで小論文に挑戦しました。これは1年後、2年後のための予行練習という位置付けで行っているものです。

今年度は「日本には、島国で長らく平和に暮らしてきたという強い意識があるため、一部で外国人排斥が露骨に表れることがあります。一方で、狩猟採集生活をしてきた土着の縄文人と大陸から渡来した稲作文化をもたらした弥生人とが平和的に共存したように、新しく来る者を受け入れ、うまく融合するという寛容性こそが日本人の特長といえるのではないかとという見解もあります。世界で人の移動が加速するなか、日本の平和を保ち、世界を平和にするのにはどのようなことが必要でしょうか、あなたの考えを述べてください」というテーマでした。

1年生、2年生からそれぞれグランプリと準グランプリが選出され、7月の朝礼で表彰がありました。以下に作品を紹介します。

高校1年生 グランプリ

1年4組 木村 真菜

私は日本の平和を保ち、世界を平和にするために「相手のことを認め、受け入れること」が必要だと考える。

そのためにまず日本人は、外国人について理解を深める必要があります。外国人排斥が露骨になる人の中には、「外国は治安が悪く、人も荒れている」という先入観が少なからずあるだろう。しかし、そういう人ほど外国人と関わり、理解を深める機会が少ないのではないだろうか。外国人について知らなかった一面を知れば、外国人への意識が変わり、いずれ外国そのものへのイメージも変わってくるだろう。そうすれば、日本人の特性でもある寛容性が生き、排斥的思考は減っていくと私は考える。

しかし、外国との結びつきが深く友好的になっただけでは「平和」とは言えない。そもそも「平和」とは何なのだろうか。

私は「すべての人が対等であること」だと思う。もちろん、上司と部下などの上下関係はあるが、人種差別などといった「人間として対等に扱われていない」人がいる限り、平和にはならない。しかし、これをなくすきっかけとして、先述した「相手のことを認め、受け入れること」は非常に重要だ。日本人だけでなく、世界中の人が一人ひとり自分の周りにいる人を認め、受け入れられたら、その時に「世界の平和」が実現するのではないだろうか。それは簡単なことではない。しかし、そのために一人の人間がすべきことは大掛かりなことでもない。相手を認め受け入れる、それだけのことだ。

高校1年生 準グランプリ

1年9組 今野 ゆい子

日本の平和を保ちつつ、世界を平和にするために必要なことは、お互いに興味を持ち、お互いを知ろうとすることである。

言語、宗教、文化の違う人々の歴史や考え方の違いを知ること、相手をよく知り、お互いに理解を深め合う上で最も大切なことだと思う。グローバル化が進む今の社会で、世界は平和になっていると思いつつも、実際は戦争が各地で起きたり、核ミサイルの実験をしている国もある。だからこそ、今お互いに興味を持ち、お互いをよく知ることが大切なことだ。

「お互いをよく知る」ということは、「お互いの歴史を学ぶ」ということである。その国の人々が築き上げてきたその国独特の文化を学ぶことで、言語や宗教は違えど、そこに生まれた多少の理解で、相手の歴史そのものを壊す戦争は起きにくくなるのだ。相手の言語や宗教、文化を露骨に嫌わず、相手に興味を持ち、尊敬し合い、うまく融合するという寛容性を身に付けることは、とても大切なことである。だが、それで日本の平和が保たなくなるというのでは意味がなくなってしまう。

世界の平和を保つという上で必要なことは、お互いに興味を持ち、お互いを知ろうとすることだが、それに加えて、日本の平和を保つということを見ると、相手に自分のことを知られるのを待つだけではなく、自らが積極的に情報を発信すること、とても大切で欠かすことができないことである。

高校2年生 グランプリ

2年3組 岡崎 栞

今の日本では、伝統を守りつつも新しい外国人を受け入れていくことが必要である。

なぜなら、2020年に東京オリンピックが行われる中で、徐々に外国人観光客が増えていくことが予想されるからだ。日本全体としても、外国に負けぬように国際化が進んでいくであろう。しかし、外国人観光客の多くは日本の習慣や文化、伝統に触れたいと思っている人が大半であり、日本の良さを無くしてまで国際化する必要はない。私は中学生のときに京都へ行き、慣れない文化に戸惑いながらも茶道を試してみたり、着物を着て歩いていたりする外国人が多く見受けられた。そういった外国人が増える日本で、外国人が過ごしやすい環境を作ることは大切だが、今だからこそ日本の伝統を大切にすべきである。

逆を考えてみるとどうであろう。私たちが外国に行けば、その国では私たちは外国人と呼ばれる。そのときに何不自由なく過ごせるのはとても良いことだが、日本と全く同じでは何も感じることはないだろう。その国の良さがあるからこそ、そこに楽しみが生まれるのではないかと。

現在では、日本だけでなく他の国も世界で統一しようという動きが見られる。世界の平和とは他の国の良さを受け入れ、尊重し合っていくことではないか。伝統を重んじる人が減る中で、日本の文化・習慣などは大切にしていきながら外国人も受け入れていくべきなのである。

高校2年生 準グランプリ

2年6組 中村 結衣

日本人と外国人が上手く共存するために必要なことは、お互いが個性を見失わず寛大な心を持って接することだ。

まず大切なことは、誰一人として同じ人間はいないということである。一見当たり前のことのようだが、これを忘れてしまっている人は非常に多い。価値観は人によってさまざま。初めは自分とは違う価値観でも、一度足を踏み入れてみることで意見が変わるということもしばしばある。これは決して「他人の価値観」ではない。他人の影響を受けた「自分の価値観」である。他人の影響を受けたとしても最終的に自分が良いと思ったならば、それは洗練された価値観なのである。

これは世界という大きな規模で見ても同じことがいえる。日本には、長年、島国で平和に暮らしてきたという意識がある。しかし、これはまだ洗練される前の閉塞的な意見だ。外国人を受け入れる前から拒否するのは、それは子どもの食わず嫌いと同じである。その考えを取り入れるかどうかは別として、できる限り多くの考えを聞くべきだ。初めから他人の考えを遠ざけることは、自分の視野を狭くしてしまうことにつながる。

今日では、交通手段が発達し世界中で人の移動が加速している。故に、あらゆるところで価値観の差による争いが見られる。しかし、お互いがお互いの意見に歩み寄ることが平和への近道だ。人間は皆違って当然なのだから、お互いの意見を尊重し合うべきだ。

学年だより 高1

第1回スポーツ大会(6月26日)

男女バスケットボールを制した1組が総合優勝、4組と5組が同点で準優勝に輝く



Takanawa 365days ~5組の生活~

5組は賑やかで男女仲の良いクラスです。男子は野球部を中心に活気があって、クラスを盛り上げてくれます。女子は明るくてやんちゃな人が多いです。担任の田端先生は時に厳しく時に面白い、常に生徒のことを考えてくれている先生です。休み時間中は音楽を流したりお菓子を食べたり、大笑いをしたりと自由なクラスですが、授業が始まればサッと切り替えて積極的に発言するなど、真面目な雰囲気を取り組んでいます。教室はいつもきれいです。ゴミを見つけたら見なかったことにせず、捨てに行くことを心がけているからです。放課後には机の中身を空にしています。皆気持ち良く学校生活を送ることができています。団結力があって楽しいクラスです。(島田花鈴)



学年だより 高2

研修旅行 ①

6月22日から5泊6日で研修旅行に出かけました。北海道、沖縄、カナダ、ハワイの4カ所に分かれ、それぞれのコースで普段の学校生活とは異なる体験や学びがありました。今回は北海道、沖縄、カナダコースについてご紹介します。

北海道コース

1組 前田 亮子



最初に網走刑務所に行きました。自分が思っていたイメージと違い、テレビなどがあり想像していた以上に設備などが整っていると感じました。別の日には旭山動物園に行きました。そこでは、猿が木から木を綱渡りすることができ、またペンギンが自分の上を泳ぐ様子が見られるよう工夫され、とても楽しむことができました。その他では、カヌーの体験をすることができました。私は、カヌーを漕いだことがなかったので、初めての体験で楽しみでした。実際やってみると、2人で一緒に漕いで進んでいくので最初はなかなか前に進むことができませんでしたが、時間が経つにつれて、上手に操作することができました。また、食べ物もとても美味しく、新鮮なカニやサーモンなどを食べました。他にも、普段食べることがあまりない、ジンギスカンを食べたりすることもできました。友達と普段できない体験を通して、とても充実した研修旅行になりました。

沖縄コース

1組 渋谷 琉夏



私は、研修旅行で沖縄に行ってきました。前半は戦争を通して平和について強く考えさせられる内容でした。特にひめゆりの塔では、沖縄戦の悲痛さが伝わってきました。ジメジメとした暗い壕の中の病院に勤め、爆発音の中、けがの手当てをし、切断された手足や死体を外へ運び出し、食事は1日におにぎり1つ。このような生活を私たちと同じ年の女生徒が送っていたことをひめゆり学徒隊の生存者の方がお話ししてくれました。映像で見るより生のお話はつらく残酷であったことを痛感させられました。後半では首里城や琉球村で沖縄の伝統的な建築物や暮らし、踊りを見ることができました。ダイビングやスキューバも体験し東京では見られないような沖縄の青く透き通った海を堪能することができました。そして沖縄美ら海水族館でジンベエザメの餌付けや黒いマンタ、イルカショーを楽しむことができました。ちょうど梅雨も明け、晴れの中、沖縄の多くを学ぶことができ、内容の濃い研修旅行となりました。

カナダコース(ホームステイ)

4組 桑田 幸陽



私は複数ある選択枠から、カナダホームステイを選びました。理由は、違う文化や習慣に触れ生活し、英語という他言語に少しでも慣れるためです。研修期間は5日間、そのうち3日間を友人3人とホームステイしました。ホームステイ先では、市内観光、ビーチやプールなどアクティブにたくさんの経験をさせてもらいました。そこで印象に残ったことが2つあります。1つ目は、フレンドリーさです。ホストファミリーは、町で初対面の人でもよく会話をしていました。乗車中信号待ちをしていたら、突然、隣のバスの運転手が私に声を掛けてきたこともありました。これは、日本では考えられないことです。2つ目は、「thank you」「please」を頻繁に使い、感謝の気持ちを言葉で表し常に笑顔なことです。感謝の気持ちを持つこと、伝えることはとても大切なことだと改めて思いました。短い日程ですが内容は充実しており、苦手な英語も3日目ぐらいからは聞き取れるようになりました。一緒に行った仲間にも恵まれ、共に成長できた忘れられない5日間でした。ホストファミリーと、行かせてくれた両親に感謝したいです。

学年だより 高3

6月27日(火) 前期のスポーツ大会がアリーナにて行われました。
いずれのクラスも大健闘の末、優勝8組、準優勝1組、3位3組となりました。

優勝 8組

仁平 高士郎

今まで私たちのクラスはいつも惜しいところで優勝を逃してきました。その分、今回のスポーツ大会に対するクラス全体の思いはとて大きいものでした。午前の種目、バドミントンで一回戦負けをし、優勝から遠ざかったと思いましたが、バレーボールとバスケットボールで男女ともに追い上げることができ、総合結果で優勝することができました。このスポーツ大会を通してクラスの団結力が一層深まりました。高校生活での良い思い出がまた一つ増えうれしく思います。

準優勝 1組

影山 尋哉

今回のスポーツ大会は、1組にとって3連覇がかかった大事な大会でした。結果は、惜しくも2位でしたが、僕たちが一番楽しんでいました。1組は去年の大会で2連覇しているの、他のクラスは3連覇を阻止しようと全力で戦っていました。よって、今までで一番盛り上がった大会だったと思います。所属の部活動が文化系、体育系など関係なく、全員が汗を流し勝利を目指して頑張っていた姿を見ると、熱い涙が溢れてきました。こうしてクラスで力を合わせる行事もあと数回しかないの、一つ一つ、1組らしく楽しんでいきたいと思っています。

3位 3組

金子 夢

正直、3組の誰もが3位になれるとは思っていなかったと思います。午前の部を終えて、1位を取った競技はゼロ。全て4位以下。残ったわずかな望みはバスケでした。高2の時は男子バスケが優勝したので、みんなでバスケにかけていました。迎えた決勝戦は、延長までもつれ込みましたが見事連覇達成。大縄跳びでも3組全体で頑張りましたが、こちらは思っていたような結果は出せませんでした。総合結果では入賞もまた無理だね、と話しながら迎えた結果発表。「第3位…3組」と呼ばれた時、私たちは本当に驚きました。初入賞です。自由な雰囲気な3組ですが、この調子で次のスポーツ大会ではさらに上を目指していきたいです。



健闘をたたえて、集合写真



攻防の一瞬



素早いラケットさばきで打ち返す



狙いを定めて



せーの!!

☆☆☆ 種目 ☆☆☆

- バレーボール (女子・男子)
- バドミントン (女子・男子・混合)
- バスケットボール (女子・男子)
- 大縄跳び (女子・男子)



2017年度学校運営方針

5月号で掲載した2017年度の学校運営方針重点目標について、詳しく紹介していきます。

2017年度の重点目標 PART.2

4 付属推薦候補者決定後の10カ月指導を充実させる

中高大一貫教育を基本方針とする本校では、毎年9割近くの生徒が東海大学に進学します。付属推薦制度では、高校3年の6月に「推薦入学候補者」として進学する学部・学科が明確となります。そこで、それ以降10カ月を進学後に向けた準備期間と位置づけ、一貫教育体制を生かした指導を展開していきます。特に12月からの授業を「特別講座」として、クラスを進学予定先に応じて再編成し、各自の大学での学びにつながる内容で行っていきます。その他にも、進学予定先の授業を先行して受講する「東海大学体験留学」や「キャリア教育」、入学準備のためのオンライン学習(スタディサプリ)なども実施していきます。



5 タブレットPC、電子黒板等を活用したICT教育を推進する

6 アクティブラーニングを取り入れた授業改革を組織的に取り組む

2008年に電子黒板が全教室に設置され、多くの授業で活用しています。これに加え、2015年には650台のタブレットPCを導入、教室の無線LANも強化しました。これで教室の全生徒がタブレットを使用でき、電子黒板ともつながり、インターネットもアクセスできる環境が整いました。これらICTツールを効果的に利用して、アクティブラーニング(双方向型の能動的な学び)を取り入れた、これからの時代の授業開発に全校で取り組んでいきます。



7 中等部・高校・大学10年間の一貫教育を充実させる



中等部・高校・大学の10年間、現代文明論を中心とし、一貫した方針で教育していくことを全教職員で意識しながら日々の指導にあたっています。すべての授業、クラス・学年の活動、学校行事、部活動等、学校生活のあらゆる面で一貫教育を推し進め、人間形成に努めていきたいと考えています。

高輪カップ(卓球)・高輪ウィンドフェスティバル(吹奏楽) 開催

男子 卓球の部

優勝	世田谷区立砧中学校
準優勝	荒川区立原中学校
3位	大田区立御園中学校

参加校 16校

荒川区立原中学校
江戸川区立小岩第三中学校
江戸川区立春江中学校
大田区立御園中学校
江東区立深川第七中学校
江東区立深川第八中学校

世田谷区立砧中学校
中野区立第五中学校
練馬区立石神井南中学校
練馬区立貫井中学校
目黒区立目黒中央中学校
市川市立南行徳中学校

越谷市立武蔵野中学校
さいたま市立大宮東中学校
松伏町立松伏中学校
東海大学付属高輪台高等学校中等部

女子 卓球の部

優勝	江戸川区立春江中学校
準優勝	練馬区立石神井南中学校
3位	江東区立深川第七中学校

参加校 7校

江戸川区立春江中学校
大田区立御園中学校
江東区立深川第七中学校
江東区立辰巳中学校

品川区立浜川中学校
練馬区立石神井南中学校
さいたま市立大宮東中学校



男子優勝 世田谷区立砧中学校



女子優勝 江戸川区立春江中学校



高輪台中等部



熱戦の様子

顧問 細田 功

第12回高輪カップが7月17日(月・祝)、本校アリーナにおいて行われました。本校部員の出身校を中心に、男子16校、女子7校が集まり熱戦が繰り広げられました。試合は、男女とも4チームによる予選リーグを行い、午後からは各ブロックの1・2位校、3・4位校によるトーナメント形式の試合が行われました。男子決勝戦は、砧中学校が原中学校を3対0で下し3年連続の優勝を果たしました。女子は春江中学校が予選リーグでは石神井南中学校に敗れたものの決勝トーナメントでは接戦の末勝利し、初優勝を果たしました。

本校中等部男子は、予選リーグで1勝2敗の3位となり、午後からの3・4位トーナメントに進出しました。初戦、小岩第三中学校に善戦したものの惜しくも敗退してしまいました。部員の数が少ない中で、3年生を中心に練習の成果を十分発揮し、昨年以上に大きく成長した姿を見ることができました。

今大会が、各校顧問の先生方ならびに多くの方々のご協力により、無事終了できたことを心より感謝申し上げます。

吹奏楽の部

参加校 44校

【午前の部 23校】

町田市立木曽中学校
江東区立砂町中学校
品川区立荏原第五中学校
川崎市立高津中学校
横浜市立洋光台第一中学校
習志野市立第七中学校
千葉市立土気中学校

品川区立日野学園
品川区立戸越台中学校
川崎市立宮崎中学校
横浜市立日野南中学校
横浜市立領家中学校
横浜市立中川西中学校
川崎市立橋中学校
横浜市立荏田南中学校
横浜市立田奈中学校
市川市立第三中学校
川崎市立東橋中学校

横浜市立希望が丘中学校
習志野市立第五中学校
市川市立第八中学校
横浜市立中田中学校
東海大学付属高輪台高等学校中等部

【午後の部 21校】

渋谷区立広尾中学校
葛飾区立水元中学校
横浜市立上の宮中学校
横浜市立南希望が丘中学校

横浜市立西本郷中学校
横浜市立南瀬谷中学校
江東区立第二大島中学校
大田区立東調布中学校
足立区立第九中学校
大田区立大森第三中学校
中央区立銀座中学校
横浜市立境木中学校
市川市立妙典中学校
習志野市立第二中学校
大田区立雪谷中学校

川崎市立井田中学校
足立区立第十一中学校
足立区立伊興中学校
川崎市立野川中学校
足立区立洲江中学校
江戸川区立東葛西中学校

顧問 畠田 貴生



中学校の先生方からは、毎年楽しみにしてくださっているとのうれしいお言葉も多かったです。今後さらに有意義なイベントとなるようにしていきたいと思っております。

今回も高輪ウィンドフェスティバル開催のために、本当に多くの方々にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

部・同好会活動報告

ゴルフ部

関東高等学校ゴルフ選手権大会(決勝) 団体入賞、個人出場



ゴルフ部部长 3年10組 藤井 優駿

ゴルフ部史上初の団体入賞



6月都大会は-2で1位タイで準優勝。また他のメンバーの谷、國分も健闘し団体戦も準優勝に。個人・団体共に準優勝、関東大会出場という結果になり、皆の3年間の努力が最高の形で結実しました。入学当初は練習環境があまり整っておらず、大会に出るのすらすらの状態でしたが、年々徐々にレベルが上がり、ついに団体でも都準優勝というところまで来ることができ、部長としてとても感慨深い大会となりました。

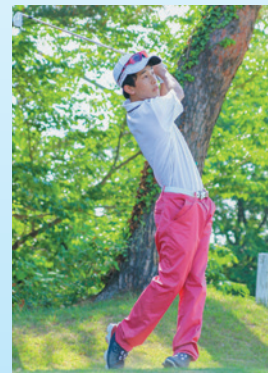
軽井沢での関東大会団体は皆調子が悪く、スコアを伸ばせないまま初日は終わり、2日目は調子が良かったものの濃霧のためハーフで中止に。また、那須での関東大会個人決勝は好不調の波が激しく、残念ながら全国には行くことができませんでした。

今回は全国には届きませんでしたが、大学でも大会はあるので、そこでは必ず全国に行けるように、また、勉強との両立は大変だと思いますが、勉強もゴルフもできる限り上を目指して、これからも練習を続けていきたいと思っています。

悔しかった関東大会

3年3組 永田 裕紀

今回2度目の関東大会でした。初日は39位タイにつけていたのですが、2日目にスコアを崩してしまい全国大会には出場することができませんでした。あと少しのところまで逃した全国大会だったのでとても悔しかったです。そして、今回学び感じたことは周りの人との技術の差です。上手い人と自分を比べるとやはり正確性が欠けていると感じました。そこで、これからは正確性を上げるために一球一球に集中して日頃の練習をやっていきたくと思いました。また、飛距離を伸ばすために身体を鍛えてさらに力をつけたいと思いました。高校での大会はこれで終わりにりましたが、大学での大会に向けてこれからも練習を真面目に取り組み、良い成績を残せるよう頑張りたいと思います。



ラグビー部

KOBELCOカップ2017 第13回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会 優勝

本校ラグビー部の島玄武君が合同チーム東京都選抜に選出され、第13回全国高等学校合同チームラグビー大会(KOBELCOカップ2017)に出場しました。

全国合同選抜大会について

3年2組 島 玄武

先日全国合同選抜大会に出場してきました。今年は連覇がかかっていたので、監督、コーチを含め全員が優勝に向け練習を重ねました。大会中はラストプレーまで勝敗がわからない試合もありましたが、日頃自分のチームでやっている練習の成果をメンバーが発揮することができたので、すべての試合をしっかりと勝って優勝することができました。

普段と違うメンバーとラグビーをすることで、自分にとってすごくいい刺激になりました。自分を成長させてくれたメンバーや、この大会に関わっていただいた人々にはとても感謝しています。

合同選抜で自分が得たラグビーの知識や、練習メニューなどを東海大高輪台のラグビー部に持ち帰って、少しでもチームに貢献できればいいと思います。



最後列一番左が島君

SSH活動報告



7月10日(月)・11日(火)の2日間、本校と提携しているタイのプリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール・トラン校から、校長先生を団長とする訪問団を迎え交流を行いました。今回で3回目の訪問となり、トラン校の生徒は本校の生徒と互いの研究プロジェクトについて英語で発表会を行ったほか、英語の授業で日本文化の体験、調理実習の授業に参加して和食作りにも挑戦しました。また、今回は本校生徒がトラン校の先生方から物理、生物、数学の授業を受けるという新しい試みもありました。2日間というとても短い期間でしたが、さまざまな活動を通して生徒たちの距離は縮まり、有意義な交流となりました。

タイ・トラン校との交流を終えて

1年10組 神田 璃沙

過去2回の本校とトラン校との交流の時、私は中等部生で、あまり関わる事ができませんでした。今回は高校SSHクラスということもあり、トラン校の生徒と交流する機会を得ました。しかし、英語が苦手なので、正直あまり前向きな気持ちにはなれませんでした。

私たち1年10組はトラン校の生物の先生の授業を受けました。その授業はトラン校の生徒と一緒にグループ活動をするというものでした。最初は何をしたらいいのかわかりませんでした。しかし、少しずつ話をしていくにつれて、何をすればいいのかわかってきました。また、今の私の英語力ではすべてを理解しようとしても難しいということがわかったので、「すべてを理解することはできなくても、今 私にできることをしよう」と考えを変えたといろいろなことが学べました。

高校2年生になった時、もっと多くの交流機会が増えると思うので、その時まで成長できるように頑張ろうと思います。



貴重な経験

3年10組 野田 翔平

私は高輪台の代表としてタイとの合同発表会に発表者として参加しました。発表は英語によるものでした。高校2年生のときからAcademic presentationの授業で英語による発表は何度も経験していましたが、発音が難しい単語が多く、また練習できる時間も少ない中での発表だったこともあり緊張しました。タイの学校は実験を始める動機が地元の問題に直結しているものでした。また内容もとても深くまで掘り下げられていて、私たちの研究はまだ浅いと感じてしまいました。

前回の合同発表会では発表を「聴く側」として参加し、今回は口頭発表で「発表する側」として、とても貴重な経験ができたと思います。さらに、タイの生徒からたくさんの質問をいただき、実験の改善すべき点や課題が見つかったので、今後の研究に生かしてより良い研究成果を得たいです。



料理に挑戦!

3年10組 青柳 和子

私たちは今回、タイから来た生徒たちと一緒に料理に挑戦しました。メニューはご飯、肉じゃが、卵焼き、うさぎリングという家庭的な和食でした。最初は慌てましたが、始めてみるとちゃんとコミュニケーションをとることができ、親睦を深めることができたので安心しました。料理をするなかで特に大変だったことは、タイの生徒たちが包丁やピーラーを使ったことがなかったということです。タイでは寮暮らしで、料理をする機会がなかなかないということだったので、心配する場面が何度かありました。しかし、最後には無事美味しくできた肉じゃがを楽しく食べることができ、「いただきます」や「ごちそうさま」も一緒にすることができました。英語で意思疎通をしながら料理をするという貴重な経験を積むことができたと思います。またこういう機会があったらぜひ挑戦してみたいです。



中高生の理科体験授業

8月6日から2泊3日で、中高生の理科体験授業が行われました。学園の附属中高生を対象に行われ、本校から8名が参加しました。大学の研究室や施設の見学、実験や発表を通して理科の楽しさに触れてきました。



3年間の成果

1年10組 石川 伸之介

僕はこの『中高生の理科体験授業』に3年間参加しました。3年間で僕はとても大切なものを2つ手に入れました。

まず1つ目は、普通の学校の授業では手に入らない知識です。普通の学校では教科書のことを中心に学びますが、この体験授業では身のまわりのことを科学的に習うので、面白い上に普段聞くことのできないとても貴重な知識を手に入れることができました。

そして2つ目は、グループでのプレゼンテーション能力です。僕はSSHクラスでプレゼンする機会があります。ですが普段は僕1人で発表するため、自分が話しやすいようにプレゼンをしています。しかしグループでのプレゼンになると、グループの人が話しやすいようにつなげる必要があります。そしてこの体験授業の最終日にはグループでのプレゼンがあり、そこでその能力を手に入れることができました。

以上のことを体験授業で手に入れることができました。ここでの経験は、僕の学校生活をより良いものにし、これからも役に立つと思います。



- 開会式
- 1 日目 **〈体験授業I〉サイエンスコミュニケーターによる科学実験教室 ◆「色の実験」**
- 2 日目 **〈体験授業II〉◆「生活の中の疑問を科学しよう」**
 - テーマ① **Dr.ガリレオに挑戦 ～見えないものを測ってみよう!**
本当に身のまわりには放射線が存在するのか? 分析機器を使って調べてみよう!
 - テーマ② **入浴剤やラムネ菓子って同じ物?(ドクターアキヤマと化学の力で製品の秘密に迫ろう)**
身近な物を使っているんな物を作ってみよう。市販品に負けないものができるかも??
 - テーマ③ **コンピュータグラフィックス(CG)入門**
CGソフトを使いゲームやアニメのキャラクターをデザインする
 - テーマ④ **交通渋滞の原因を探ろう!!**
渋滞の仕組みを理解して、どうしたら渋滞なくなるか一緒に考えましょう!
 - テーマ⑤ **電気と磁気の不思議を探る - ICカードの原理を求めて -**
触れずに作動するICカードの原理を電気と磁気の実験しながら解き明かします
 - テーマ⑥ **科学捜査体験 ～犯人に迫れ～**
いろいろな化学変化を利用して、指紋、血痕検出にチャレンジしてみよう!
- ◆「学科最先端の研究体験」
- 理工系の大学生との交流会
- 3 日目 ●発表会・閉会式

お知らせ

2017 東海カルチャーセミナー

❖日時:9月2日(土) 13:00~15:10 (12:30受付開始) ❖場所:本校アリーナ

第1部 本校吹奏楽部によるコンサート 指揮:畠田 貴生
第2部 講演会 講師:眞鍋 政義 先生(元全日本女子バレーボール代表監督)
テーマ:「夢は必ず叶う」

2017年度 第16回高校体育祭

●日時:9月27日(水) 9:30~16:00

予備日:10月6日(金)、18日(水)

●場所:さいたま総合グラウンド

行事予定

September 9月

October 10月

- 1日(金) 朝礼 避難訓練(平常授業)
- 2日(土) 3時限授業(4時限カット) 東海カルチャーセミナー
後援会委員総会②
- 5日(火) 校医相談日⑤
- 12日(火) 生徒自宅学習日
- 13日(水) 専門医によるカウンセリング③
- 14日(木) 生徒による授業評価アンケート②
生徒による学校評価アンケート①
- 18日(月) **敬老の日**
- 19日(火) 前期期末試験(中等部:~21日、高校:~22日)
- 22日(金) **写生大会(中等部)**
- 23日(土) **秋分の日**
- 24日(日) 東海大学オープンキャンパス(高2:湘南校舎)
- 25日(月) 生徒自宅学習日
- 26日(火) 答案返却
- 27日(水) **第16回高校体育祭**
(さいたま総合グラウンド、延期の場合は金曜日の授業)
中等部授業日(特別時程)
- 28日(木)・29日(金) 生徒自宅学習日
- 30日(土) 短縮授業 保護者会 保護者による学校評価アンケート

- 1日(日) 受験生・保護者対象学校説明見学会③(高校)
- 2日(月) 後期始業式 2・3時限授業(4・5・6時限カット)
- 3日(火) **スポーツ大会(高3:さいたま総合グラウンド)**
校医相談日⑥ 学校保健委員会② 安全衛生委員会②
- 4日(水) 体育移動授業開始
- 5日(木) 学年集会②(高1、中1)
- 6日(金) 高校体育祭予備日
- 7日(土) 英検②(3、4時限:中等部)
- 9日(月) **体育の日**
- 11日(水) 建学祭開祭式(7時限)
- 12日(木)・13日(金) 建学祭準備
- 13日(金) 建学祭前夜祭
- 14日(土)・15日(日) **第53回建学祭**
- 16日(月) 振替休日
- 17日(火) 建学祭閉祭式(1時限) 短縮4時限授業 5・6時限カット
- 18日(水) 高校体育祭予備日
- 19日(木) 学年集会②(高3、中3) 教育実習(~11月11日)
- 26日(木) 生徒会立会演説会(1時限 中等部:アリーナ 高校:放送)
- 28日(土) 特別時程 SSH成果報告会
- 29日(日) 受験生・保護者対象学校説明見学会④(中等部)

剛健旅行



最後の上り坂をダッシュ!



ゴール到着!



後援会の皆さん、毎年ありがとうございます!



豚汁とおにぎり☆

編集後記

長かった夏休みも終わり日常のいつもの生活が始まった。夏休みは部活三昧だった人、旅行や普段できないような体験をした人も多くいるのではなかろうか。9月は前期の総まとめの時、休み明けに良いスタートが切れるように気持ちを引き締め頑張ってもらいたい。暑さがまだまだ続いているが暦の上ではもう秋、朝晩の空気はめっきり涼しく感じられるようになってきた。秋と言えばお月見のシーズン、小さなスマホの画面に熱中せず ゆっくりと月でも眺めてみてはいかがだろうか。(ほ)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ:<http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>